

FMC

野菜用殺虫剤

プロロン® 粒剤



powered by

CYAZYPYR®
ACTIVE INGREDIENT

確かな効きめで好スタート!
初期防除からつながる未来へ。



幅広い殺虫スペクトラム

オオタバコガ、コナガ等のチョウ目害虫および、キスジノミハムシ、カブラハバチ、コナジラミ、アブラムシ、アザミウマ、ハモグリバエ類等の広範囲な害虫に卓効を示します。

速やかな摂食活動阻害による作物保護

薬剤を取り込んだ害虫は速やかに摂食活動を停止します。

根からの吸収移行性と長い残効性

根から吸収された薬剤が約3~4週間にわたって残効を示します。

■適用害虫と使用方法

2018年11月現在

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コナガ アオムシ アブラムシ類 アザミウマ類 ハイマダラノメイガ	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、 使用土壌約1.5~4ℓ) 当り50g	育苗期後半 ~定植当日	1回	本剤の所定量を セル成型育苗トレイ または ペーパーポットの 上から均一に散布する。	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 定植後の散布は 3回以内)
	コナガ アオムシ ハイマダラノメイガ	1g/株	育苗期後半 ~定植時		株元散布	
	アブラムシ類 アザミウマ類	2g/株				
はくさい	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、 使用土壌約1.5~4ℓ) 当り50g	育苗期後半 ~定植当日	1回	本剤の所定量を セル成型育苗トレイ または ペーパーポットの 上から均一に散布する。	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 定植後の散布は 3回以内)
	コナガ アオムシ ハイマダラノメイガ	1g/株	育苗期後半 ~定植時		株元散布	
	アブラムシ類	2g/株				
ブロッコリー	コナガ アオムシ アブラムシ類 アザミウマ類	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、 使用土壌約1.5~4ℓ) 当り50g	育苗期後半 ~定植当日	1回	本剤の所定量を セル成型育苗トレイ または ペーパーポットの 上から均一に散布する。	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 定植後の散布は 3回以内)
	コナガ アオムシ	1g/株	育苗期後半 ~定植時		株元散布	
	アブラムシ類 アザミウマ類	2g/株				
レタス	オオタバコガ アブラムシ類 ハモグリバエ類	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、 使用土壌約1.5~4ℓ) 当り50g	育苗期後半 ~定植当日	1回	本剤の所定量を セル成型育苗トレイ または ペーパーポットの 上から均一に散布する。	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 定植後の散布は 3回以内)
	オオタバコガ ハモグリバエ類	1g/株	育苗期後半 ~定植時		株元散布	
	アブラムシ類	2g/株				
ピーマン	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類	2g/株	育苗期後半 ~定植時	1回	株元散布	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 定植後の散布は 3回以内)
トマト	ハモグリバエ類 アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類					
ミニトマト きゅうり						
なす						
だいこん	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ カブラハバチ キスジノミハムシ ネキリムシ類	6kg/10a	は種時		播溝土壌混和	4回以内 (は種時の土壌混和 は1回以内、 散布は3回以内)

*色文字が適用拡大部分(なす:ハモグリバエ類、だいこん:ネキリムシ類)

△効果・薬害等の注意

- アルカリ性肥料との同時施用はさけてください。
- つまみ菜・間引き菜には使用しないでください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意してください。
- 密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷涼・乾燥した所に保管してください。

殺虫剤分類 28

殺虫剤抵抗性管理(IRM)

一般推奨事項：薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、プリロツソ® 粒剤または他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト
(1) Insecticide Resistance Action Committee(IRAC)ウェブサイト
[http://www.irac-online.org]
(2) http://www.fmc-japan.com/
Agricultural-Solutions/IRAC

- ラベルをよく読んでください。
- 記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届く所には置かないでください。
- 空袋は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。
- 防除日誌を記載しましょう。

